

IT時代の新しい販売チャンネル「電子仮想市場」始まる！

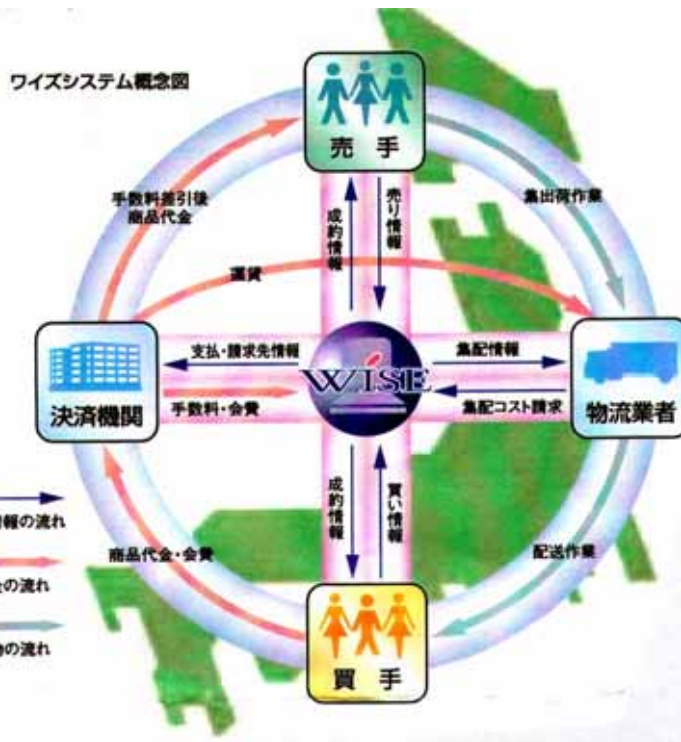
世はIT時代、パソコンが家庭内にとどんでん広がってきています。みなさんのご家庭では、どうでしょうか。高校生、大学生、若手の社会人をお持ちの家庭では、たいがいとっていいほど1台はお持ちのことと思います。パソコンを使わなくても携帯電話で電子メールが送れる時代になりましたから、電子メールの利便性を知った若者には、パソコンが必須の道具になってきます。難点であったプロバイダー接続料や、通話料もより廉価な商品が提供され始めましたし、パソコン本体も随分安く

なってきました。ここ2~3年で周辺環境が整備されパソコン利用者も増大し、街のパソコンスクールを、主婦やシルバーが席捲する状況となってきました。

そんな環境に合わせて、いよいよ登場してきたインターネットを利用した花卉市場の例を今号では紹介します。見出しの仮想市場という語句からは、お遊びのような印象を持たれるかも知れませんが、正真正銘の市場です。売買が実際に行なわれ、決済も行なわれます。従来の市場のように物を持ち

込んで、セリを行なう場所があるわけではありません。コンピューター上に、市場が開設されているわけで、そこには実際の物があるわけではなく、そこから仮想市場の名称が出ているわけです。今年の5月から全国レベルで運用開始されており、本年末か、来年早々には、当面は、こだわり野菜に絞るとのことですが、野菜も扱ふとのことで、みなさんとも関係あるお話だと思えます。聞き耳を立ててください。

(経営企画室 小倉東一)



取引には4つの形態がある

<p>注文取引 (A取引)</p>	<p>買手は自分の欲しい商品情報を発信し、その情報を見た売手が注文に対して応えます。買手は売手からきた情報の中から条件の折り合ったものを購入する取引</p>
<p>予約取引 (B取引)</p>	<p>売手が出荷情報を発信し、買手の中から条件の折り合ったものを購入する取引。買手は売手の情報に対して交渉が可能です。</p>
<p>一般取引 (C取引)</p>	<p>売手が販売情報を発信し、買手がそれらに対して応札を行います。その後、価格形成プログラムによって落札が決まる取引。</p>
<p>先取取引 (D取引)</p>	<p>一般取引(C取引)での残品や取引時間に間に合わなかった販売情報を売手が発信し、買手の中から条件の折り合ったものを購入する取引。</p>

東京都中央区にあるベンチャー企業ワイズシステム社が始めたもので、通産省電子政策分野開発資金を導入し、市場の機能を電子情報化する取組を開始、試験運用を経て、本年6月から全国展開している。取引形態は、右表に示した4つがある。出荷3日前の取引が原則で、品物は畑、ハウス内にある時に取引が行なわれる。従来の市場における商物一体の原則は排除されている。出荷段階では、買手、価格も決まっているわけである。いくらになるかわからないけれど出荷する思いはしなくてもいい。売手が指値をすることなどは、可能である。買手にしてみたら、

どうしても調達したい品物が調達できるかどうか、その日にならないとわからない不安定さから開放される・・・など、従来の市場機能の問題点がクリアされている。農林水産省も花卉課は、新時代の取引形態として賛成。市場課は、まーまーのスタンスとか。生産者は、市場から先の情報が伝わってこないもかしさがあつたが、これらが、このしくみだと大幅改善が見込まれる。手数料は6%、買手までの運賃負担は売手とのこと。野菜も乗せていきたいとのことで、新しい販売チャンネルとして育ててほしいものです。詳細ワイズ社のHPへアクセスしてみてください。

<http://www.wise-system.co.jp>